

「邪魔や」モノ扱いでも現場へ

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(52) 草津市

はい上がる人

わたしの歩跡

勤務先(大津市の不動産関連)で言い出す人がいて、「えっ、会社」のおじさんたち、テレビ 俺に似た人がいるんですかあ」ドラマ「鬼平犯科帳」が好きで、 かってとほけたんですけどね。お昼に前夜の話になるんですけど、 映画版「鬼平犯科帳 劇場版」ね。後ろで歩いてるだけで自立 (1995年)を撮ることになってたんで、気づかれないか心配。ある日、「後ろに土平君 っ、主演の中村吉右衛門さん そっくりの人が出てくるんや」 一行が捕まえて行く場面に隠れ



映画「忠臣蔵外伝 四谷怪談」で演じた赤穂浪士のりりしい姿

いずれも本人提供

ていて、ぎらっと顔を出す悪い奴の一人に選ばれたんですね。公開後にすぐ見たら、大画面にすごく大きく出て「怖い顔してるけど、絶対俺や」。会社で昼ご飯食べてたら、総務部長が「あれ、土平君やろ」。「ご覧になりましたか」。仕事はまじめにやっていたんで、みんな喜んでくださったんですけど。

前年の94年には、深作欣二監督(故人)の「忠臣蔵外伝 四谷怪談」(日本アカデミー賞最優秀作品賞)でいい仕出し(エキストラ)が付いたんです。磯貝十郎左衛門という名前入りの衣装をもらって、赤穂浪士大好きで張り切っていたんですけど、仕事で行けへんときは違う奴が着るんですね。それが悔しくて。「毎日行きます」って5時まで会社で働いて、松竹京都撮影所のある太秦(京都市右京区)に飛んで行って、6時40分からの撮影に間に合わせて、朝6時まで撮影し、家に帰って風呂だけ入ってまた会社に行く訳です。1カ月ぐらいそんな生活でした。

▲俳優業にのめり込めば、のめり込むほど、会社との両立に無理が生じてきた▼

有休取って朝イチで行ってるのに、天候が気に入らんから撮影は中止っていうのが何回かあって。有休なくなっても、仕事



先輩俳優の本田博太郎さん(右)と。「ぶれない役者魂」をお手本にしているという

で行けませんって言えなくなっ て、あるとき、撮影所から「具合が悪くて休みます」って会社に電話している自分がいて。そんな裏切り行為が許せなくて。これはアカンって。もう切ろうと思ったんです。

▲幼子3人の29歳が一大決心する。「二足のわらじでは、本物の役者になれん」。周囲の猛反対の中、妻桂子さん(当時26歳)一人に背中を押してもらい、10年ほど勤めた会社を辞める▼オープンセットで冬場は、炭をたいた「ガンガン」に当たりながら、撮影現場から遠く離れたところでベラベラしゃべって出番を待つんですけど、それが嫌で。ここにおいたらあかん。

ぬるま湯につかってしまっ。仕出し一本になったんで、常に現場にしよう。行商人やるときは、荷物を担いだまま、カメラの横にいて、「うろろろするな。邪魔や、向こう行け」ってよう怒られます。仕出しなんてモノと一緒にですから。カメラ脇にこっそりいて、渡辺謙さんとか、役所広司さんとか、ええ芝居やなあって見ましたね。奮い立たせられましたし、こういうテンションのときは、ああいう表情になるんやなって。

僕がいつも見てるから、こいつやる気ある奴やな、俳優ってピンと通るものがあるんですね。本田博太郎さん、竹中直人さん、渡辺哲さん、六平直政さんとかと仲良くなり、休憩時間「これからどうすんの」って。「東京にも行ってみたいんですけど」って答えたなら、皆さん、声をそろえて言うのは「今は難しいよ。事務所は誰も取らないからね」。

▲「はい上がる人」は、それで諦める人ではなかった▼

【エリア編集委員・大澤重人】
次回回は5月8日

カメラ横で演技を体得

前回の写真に「怖すぎる」

ドンペイさんがフェイスブックで

発信中。前回のインパクトのある写真には「怖すぎる」などの感想が殺到しました。テレビドラマ「御家人斬九郎」で左頬に傷がある悪役を演じたドンペイさんを見て「妙に目立っていて誰じゃコレって思ったが、それで顔を覚えましてわ」というコメントが寄せられました。